

しゅうまい

「つくる会」教科書をめぐる様々な動き

●扶桑社、新教科書は子会社「育鵬社」で発行

扶桑社が、教科書発行専門の子会社「育鵬社」を設立し、発行中の「新しい歴史教科書をつくる会」が主導した教科書の内容を書き換え、教科書名も変更して新教科書を発行することになった。ただし教科書としての記述の本質的な問題点は、変わらないであろう。

新教科書は、元「つくる会」会長の八木秀次高崎経済大教授と評論家の屋山太郎氏、伊藤隆東京大名誉教授（歴史担当）、川上和久明治学院大教授（公民担当）らで結成する「改正教育基本法に基づく教科書改善を進める有識者の会」（「教科書改善の会」）が、編集と採択運動に協力し、育鵬社と密接な関係を保持しながら作成する。

この「教科書改善の会」は、「つくる会」から分裂して日本会議派の八木氏らが設立した「日本教育再生機構」の事実上の教科書部門である。したがって「つくる会」と本質は変わらないが、扶桑社としては売れる教科書を目指すとしており、装いは新たになるであろう。むしろ他の教科書と見分けにくいネオコン教科書になる可能性も・・・。



●「つくる会」分裂！ 今後は「教科書 改善の会」に注意！

扶桑社は、当面は中学校用歴史・公民の現行版教科書を発行するが、早ければ2011年にも育鵬社による新教科書発行に切り替える。「新しい歴史教科書をつくる会」は、現行の扶桑社版中学校歴史教科書の継続発行を求めたが、扶桑社はこれを拒否したため、扶桑社と絶縁状態になった。

6月、「つくる会」は、同社の新教科書が現行の「つくる会」教科書と類似しないよう警告する通知書を送った。「つくる会」は、現行教科書のまま発行を引き受ける出版社を募集するとしているが、現実には厳しいだろう。

また、会長の小林正氏を解任し、藤岡信勝氏が会長となって、再分裂。日本会議派と言われる八木氏らの「改正教育基本法に基づく教科書改善を進める有識者の会」（「教科書改善の会」）と対立している。7月には、藤岡氏が八木氏を名誉毀損で提訴するなど、泥仕合が続いている。

●東京都教委、中高一貫校5校に扶桑社採択

都教委は7月、来年度開校の立川、武蔵野両地区都立中高一貫校、都立小石川・両国・桜修館の各都立中高一貫校で、来年度から使われる公民教科書として扶桑社教科書を委員全員一致で採択した。

発行者の扶桑社自身が「教育委員会の評価は低く、内容が右寄り過ぎて採択が取れない」と評して廃版にする教科書を、最適と判断して子どもたちに使わせている東京都、杉並区、大田原市、愛媛県、滋賀県の教育委員の神経はどうなっているのだろうか？

●高校教科書検定で、沖縄戦「集団自決」の日本軍関与を削除

3月の高校日本史教科書の検定結果によると、文科省は、沖縄戦の「集団自決」について、日本軍による命令・強制・誘導等の表現を削除・修正させたことが判明した。

昨年度の検定までは、同じ記述で検定合格しているが、今回検定で「集団自決」の日本軍関与について断定的記述をしないよう検定意見が付された。

背景には、「沖縄戦」の記述を巡って岩波書店と大江健三郎氏を相手取り、大阪地裁で裁判が起こされていることを理由に、何らかの圧力がかかったものと思われる。

しかし「集団自決」についての日本軍関与は、体験者も多く、家永教科書裁判第3次訴訟判決でも認定された歴史的事実である。しかも6月には、担当した教科書調査官の1人が、「新しい歴史教科書・改訂版」（扶桑社）の監修者と同じ研究グループに属していた、つまり現行教科書の関係者が検定過程にかかわっていたことも判明。検定の中立性にも問題を残した。

現地沖縄では、県議会、全市町村議会が抗議の意見書を採択した。このような歴史の歪曲を許してはならない。



教科書採択制度の民主化を求める神奈川の会

佐藤 満喜子

一米下院一

慰安婦決議について思うこと

米下院は7月30日、戦時下の慰安婦問題について日本の首相に公式謝罪を求める決議を採択した。この決議は日本政府が1930年代から第二次世界大戦にかけ日本軍慰安婦として若い女性に性的な奴隷状態を強制した歴史的責任を認め、謝罪することを求めている。決議では慰安婦制度の残虐性と規模は前例がないとし、また、「20世紀最悪の人身売買事件の一つである」ことや、日本の教科書の中には慰安婦の悲劇を軽視しようとするものがあること、さらには最近日本の官民の要職にあるものが河野談話の内容を弱めるか撤回してほしいと要望していることなども指摘している。こうしたことから日本政府に対し、旧日本軍によって慰安婦が性的奴隷状態にされ売買されたという事実がなかったとする主張に明確な反論をすること、並びに国際社会の声を理解し、現代と将来の世代にこの恐ろしい犯罪について教えていくことなどを求めている。

下院で慰安婦決議が全員一致で採択されるようになるまでにはいくつかの経過があった。この問題で日本政府の公式謝罪を求める決議案はこれまで4回提出され、いずれも廃案になった。しかし、3月の安倍首相の「強制生を裏付ける証拠がない」などという

2007年(平成19年)7月31日 火曜日

マサヒ

米下院が慰安婦決議 首相に公式謝罪要求

【ワシントン・小村田義之】米下院は30日の本会議で、従軍慰安婦問題について日本の首相が公式に謝罪するよう求める決議を採択した。同様の決議案は01年から4回提出され、いずれも廃案になった。

28日に39対2の大差で決議案を可決。本会議でも3分の2以上の賛成が見込まれたことから、今回の採決は発議投票で行われた。出席議員から異議は出なかった。

決議は、「旧日本軍が若い女性に性的な奴隷状態を強制し、被害を及ぼした」という内容で、日本政府の謝罪に留保を

「ボストンに決議案は『現実の意図的な歪曲』とする意見広告を出し、議会内の反響が再燃した。『説明続ける』」

安倍首相は31日、米下院が従軍慰安婦問題に

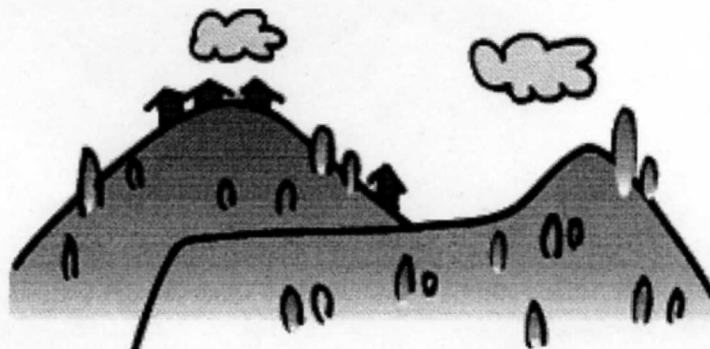
発言に対する反発や、4月の外交文化委員会の聴聞会において慰安婦の生存者であるイヨンス・ハルモニ（おばあさん）の証言がなされたこと、アメリカの新聞に日本の官民の要職者たちが軍の関与を否定するような意見広告を載せ多くの人々の反感を買ったことなどが採択に結びついた要因としてあげられている。

トム・レンドス委員長（民主党）はホロコースト生存者として決議案の本会議上程に積極的に関わってきたが、提案説明で「日本帝国の軍隊が多くのアジア女性たちを（従軍慰安婦として）強制動員したということは否認できない事実」でありながら「歴史を歪曲し否定し慰安婦犠牲者たちを非難するなど」のこうした日本の態度には反吐が出ると非難した。また、決議案を発議した日系三世のマイク・ホンダ議員は慰安婦被害者であるイヨンス・ハルモニが外交委聴聞会で日本軍の蛮行に対し証言した事実と言及し、「彼女ができることは泣くことと『ありがとう』と言うことだけだった」と慰安婦被害者たちの辛苦に満ちた生き様を議員たちに想起させた。共和党所属のタムデビス議員は日本が米国の同盟国であることを取り上げて「真の友達に友達の誤りを指摘するもの」と決議案採択の当為性を主張し、女性であるリーン C. ウルシー議員（民主党）は「再び女性が戦争の犠牲物になってはならない」と声を張り上げたという。

(07.7.31ohmynews)

日本政府はこれまでソウルの日本大使館前で毎週行われている水曜デモでの慰安婦ハルモニたちの訴えを何年にもわたって黙殺し続けてきた。それでいて歴史を歪曲してまで軍の行動を美化し正当化しようとする「つくる会」の動きなどを支持し、右翼的な日本社会の潮流に乗って靖国神社参拝などを繰り返して、アジアの人々の平和への願いを踏みにじってきた。実際こうした動きの先鋒に立ってきたのが安倍首相自身で、いわば確信犯的存在でもあった。勿論、日本においても草の根の市民の運動によって歴史歪曲の教科書は1%の採択をも満たすことができなかった。そして今度は、日本の「盟友」でもあるアメリカ議会からも公式謝罪を求められるという形で批判を浴びているのである。私たち「市民の会」が発足の当初から主張してきたように、アジアの人々に加えた侵略の事実に対する歴史歪曲はいくら美化したところで「井の中の蛙」であるということが再確認された。実際、国際社会ではまったく通用しないことが今回の決議で今さらのように明らかになった。日本政府に謝罪を求める慰安婦決議のような動きはこれからも全世界に広がっていくだろう。でも、だからといって私たちが安逸をむさぼることはできない。問題はこれで終わったわけでは全くないからである。残念なことに首相に誠意ある謝罪をさせることができないという日本社会の現実は今も変わっていない。慰安婦ハルモニの訴えに私たち日本人一人一人がどう答えるのかそれが問われているのである。アメリカ人はアメリカ人としての答え方をしたのである。

(O)



かながわ歴史教育を考える市民の会 スタディツアーのお知らせ

「重慶から南京へ」



市民の会では今年もスタディツアーを計画しています。今年は日本軍による無差別爆撃が行われた重慶と南京大虐殺から70年を迎える南京への旅を下記の日程で計画しています。参加者の募集方法等、詳細については今後のしゅうまいでお知らせしますが今から予定を入れておいてください。

※別添のチラシでもご案内しておりますが、9月25日(火)に「空からのテロル＝重慶爆破を検証する」と題し前田哲男さんを講師にお招きしての学習会を開催いたします。こちらのほうにもご参加下さい。

かながわ歴史教育を考える市民の会

3泊4日

2007年7月17日

No.	月 日	曜日	移動場所	時間	交通機関	日 程	食事	宿泊都市
1	12月22日	土	成田発 上海着 上海発 重慶着	10:55 12:45 16:10 19:05	MU272 MU5423	午前：中国東方航空にて上海へ 午後：空路、重慶へ	× + ○	重慶
2	12月23日	日				午前：隧道惨案記念館 午後： (MU2716 重慶 20:20—南京 22:00)	○ ○ ○	重慶
3	12月24日	月	重慶発 南京着	08:00 09:40	CA4545	午前：空路、南京へ ラーベ邸、 午後：南京大虐殺記念館	○ ○ ○	南京
4	12月25日	火	南京発 上海着 上海発 成田着	10:40 12:58 16:30 20:30	D415 MU271	午前： 列車にて上海へ 午後：中国東方航空にて帰国の途につく	○ ○ +	